



星・銀河・宇宙—100億光年ズームアップ

高瀬文志郎著

地人書館 A5版 156ページ 1854円

教科書

お薦め度

☆☆☆☆☆

本書は大学教養課程文科系向けの教科書とのことですが、講義録をもとに作成されただけあって文章のみではなく豊富な図表も含まれていて、資料集的性格も持ち合わせています。トピックスとしても、太陽系から宇宙までのあらゆる階層の天体を取り扱い、人間の宇宙観の変遷や、地球外生命の探査まで、天文学で扱うほとんどすべてが網羅されています。ただ、文科系対象という制限もあったのでしょうか、個々の内容については若干物足りないものを感じます。

私は主に可視光で観測をしています。赤外線と同じ天体を見るとまるで様子が違って宇宙の奇想天外なことに驚きます。また例えば門外漢である電波の絵をみて、あれこれは何だろうと思って本文を読むとそれが星の生まれるところでこういうことが起こっていることを知って満足します。本書の図表・写真は（著者が所長を勤められた木曾観測所のものに限らず多種にわたるもの）他の本にもものっているものが多く、あれこれは何だろうと思わせるような新鮮な図表が少ないように思います。

物足りない原因のもう一つはクラシカルな構成であるということでしょう。最近の重要な発見・成果（例えばX線天文衛星「ようこう」による太陽の写真、COBEによる宇宙背景放射の非等方性の発見とスペクトルが黒体放射であることの確認、いわゆるピケットフェンス、さらには重力レンズ等）も盛り込んで新鮮な本にしようとしたのはよくわかりますが、現代的な研究の紹介を目指した構成にはなっていないように思います。

現代的な内容をどこまで含めるかは内容の深さ

の問題でもあり、難しい取捨選択だったのだろうとは思いますが、例えば星座の一覧表等は必ずしも教養という天文の考え方の歴史を学ぶ過程に必要なものとも言い切れず、その分を活発な発展を遂げている領域に割り当てることも可能ではなかったかと思います。例えば赤外線衛星や電波観測によって最近次々に明らかになってきた星形成領域、活動的な銀河中心領域といった分野で天文学者がどう考えているかを知ることができれば、大いに満足したでしょう。今後の計画も紹介されていますが、こういうことは研究の新しい息吹としてももっともっと強調してよかったですのではないかと思います。

書評の性格上いろいろ書きました。しかしながら、基本的には驚くほど包括的に要点を簡潔明快に説いた優れた教科書です。また読者に天文学（学問というより天文観測、あるいは宇宙そのもの）に対する関心をもっと抱いてもらいたいという著者の強い願望を感じます。何か月か前の書評で、教科書としては絶版に値すると酷評されたものがありました。それと比べると（評者が甘いのかな？）極めてスタンダードな教科書でどんな人にも安心して読んでもらえます。また著者の博識ならではの可能な所々には含まれたエピソードが楽しみで、あきさせない一冊です。

長谷川 隆（東大理天文）